

平成 30 年度 共同生活支援ばあとなあ事業報告

《平成 30 年度の経過と評価》

新設 GH「GH 紬」への利用者の移行に対する報告

○移行の際の利用者の混乱トラブル

GH 紬が開所され新しい環境での生活に混乱があるかと思われたが、職員の丁寧な配慮により、混乱することなく新しい生活環境に慣れ、過ごすことができていた。

○夜間の環境

6 月からの猛暑で夏場室温 30 度以上のためエアコンを夜中もつけて対応した。

11 月を過ぎて急に室温が夜間低くなってきたのでタイマーでセットして様子を見ていたが宿泊することにより明け方寒くなることが確認されタイマーを設定せず夜間エアコンを使用し室温調節を行った。その際、室内の乾燥が激しく湿度も低くなりすぎるため洗濯物を干すなどして湿度が保たれるよう工夫することで健康管理に努め大きく変調をきたす利用者はなかった。

○家族の心配の件

ある深夜徘徊がある利用者の新設ホーム移動に対しては環境の変化により本人の状態が悪くなることが以前あったのでご家族が大いに心配され施錠などの徹底などを相談されていた。職員が宿直し深夜の様子や睡眠状態を確認し施錠などの徹底を行い、日中の行動の様子など注意深く支援していたが、心配していた大きな変化もなく移動したことで逆に徘徊もなくなり落ち着いて生活できるように見られた。

職員の退職や異動についての報告

○職員の勤務体制

長年働いていた主任が病気のため退職され、すたあととの兼務という形で職員が週 1 回利用者直接支援で入るとともに様々な形で入りホームの側面支援も担ってもらった。大きく空いた穴をほかのスタッフの協力で週末帰省日をひまわり、紬で交互に設定することで済んでいる。

○新規職員の採用の問題

年度途中で新しく職員 2 名が求職希望されていたが、体験段階で断られてしまっている。

中抜け勤務はフルタイム希望者に不評だった。パートタイム希望者は夜間帯を希望しない傾向がある。1 月で夜間入ってくれていた職員が退職するにあたりますます、休日の夜間帯の支援が薄くなってしまった。2 月 3 月から新しく職員が入っている。初めての障がい者の支援ということで不安や混乱が大いにある中、少しずつ業務の流れをおぼえているが、利用者の支援に自信をもってできるようになるにはもう少し時間がかかると思われる。業務に慣れてきて一人で勤務に入れるように進めている。

活動について

外出食事会や日帰り旅行、プール活動、買い物や散歩外出、ホーム内でのカラオケの実施も行うことができた。GH で BBQ を駐車場で行う予定を立てていたが夏場急に暑い日が続き、見合わせている中流れてしまった。また、長く休止していた温泉外出に再び行うことができた。これはビリーブ、すたあとヘルパーを活用することで出来ているので人員確保が重要である。クリスマス会では利用者が招待状を書き招くなど、自主性主体性も養われた。

プールの活動ははじめ参加を拒否していた利用者だったが、参加した利用者の話を聞いているうちに心が動いたと察知し、丁寧な進め方を行うことでプール活動に楽しく参加できるようになった。また、他の利用者も参加を楽しみにしている。余暇時間も少しずつ充実してきている。

その他

○GH 世話人会議

月 2 回に増やし、情報共有や意見交換を活発に行っている。

○利用者の面談

希望者のみ行っている。

○職員の面談

○防災学習と防災訓練と課題

交互に行い、効果向上に努めている。

防災避難訓練については、各職員から職員一人で利用者を避難誘導できるか不安の声があがっている。そこで、GH は夜間職員がいないので職員がいない場合も想定しての訓練の必要が迫られ来年度の避難訓練に練りこんでいかななくてはならないことの認識を新たにした。

○研修

虐待防止や地域防災などの研修に参加し学習の機会を設定している。研修の一部は GH 会議の中で共有している。

○利用者の運動不足

日ごろの運動不足解消のため利用者家族から自宅で不用となった健康器具をいただき室内運動の機会を設けた。日中の施設でも使用され活用されているが、ホームでは休眠状態である。

○高齢になり生活スタイルの変更が検討された利用者の件

8 月にケース会議を開きすたあとの日中一時を利用して様子を見ることとなった。小さな発作は見られたが大きな発作が 12 月にあり救急車で市民病院に運ばれることとなる。退院前からそうだったが毎日のように朝便失禁があり、入浴の際にも失便が浴槽内であること移動に拒否があることなどから入浴をシャワー浴に切り替えるなど本人の体調や様子に合わせた支援を行ってきた。体の老化から薬の吸収が悪くなっており、薬の量を増やしている。病院で療養中となり今後介護保険を使つてのサービスの利用となっていく予定である。

《重点課題に対する取り組みと評価》

(1) 運営基盤の強化 (運営・管理体制、サービス管理)

- ・職員の補充による体制の強化とそれによる帰省日の軽減に伴い利用日の増加を図る。
- ・専従管理者によるサービス管理体制

人員確保

体験をされたあと断られた人もいれば、少し働いた後で辞められる方もいた。

「中抜け業務」でなければ入職希望されていた方がいた。朝だけ希望されている方もいた。

現在 2 名の職員が働き始めている。先輩職員の指導の下、懸命に業務を覚えてくださっている。支援に対して不安もあり、支援方法などについても丁寧に教え今いる人員が定着することを第一に行っている。他 GH でも人員確保は問題であり、問題解消に当たり待遇面で見直すか、時間業務形態で見直すかする必要もあるのではないかと考える。つまり、

7 : 3 0 ~ 1 0 : 3 0 GH 朝勤務 1 0 : 3 0 ~ 1 6 : 1 5 日中支援勤務 (童、奏)
1 1 : 4 5 ~ 1 5 : 3 0 日中支援勤務 (童、奏) 1 5 : 3 0 ~ 2 0 : 3 0 GH 勤務

これを、正職ほかパート職員、GH職員にも場合によっては適用すれば人材不足を補うことができると考える。新しく入られた職員は夜の勤務を希望されないため、夕方の時間帯の支援体制が万全でないため帰省日を減らすことはできてもなくすことは今のところ出来ていない。

利用日の増加

職員の補充により勤務体制やサービスを見直すことができ、専従管理者も直接支援を行うことで帰省日を減らし結果利用日数を年度初めの予定日数より軽微ながら増やすことができた。

- ・管理者会議による問題の共有と解決に向けての協力体制
- ・各事業所の連携による多面的な支援の展開

あるホームの利用者の支援について事業所間の連携協力で日中一時を試用で行い、その様子を見てきたが、集団活動的な部分が本人のペースでゆったりとした活動提供環境の方が本人の表情がよくなり、反応が出るなどある一定の評価がみられる事例があった。

- ・さらなる人材確保を通して夜間支援体制の強化

現在3名のフルタイムスタッフが毎週交代で週1日、また、暴風警報や利用者の不調に対応し宿泊し様子を見るなどの体制を整えている。

(2) 人材育成と支援の向上

会議や研修などで支援についての在り方や個別支援の方法など話し合いながら共に学ぶ機会を設けてきた。**WEB**による自己研修の利用については予想以上に生かし切れていないため今後の課題となっている。全体と個人両面の研鑽で人材育成を図るとともに業務の標準化（マニュアル）の見直し、使えるマニュアルを現場職員で作成する。数か月後見直しを行い、さらに深化したマニュアルへと作り変え、支援の向上を図る。

また必要に応じ職員の面談を行い、支援に対する悩みや疑問に答え確認を行ってきた。

(3) 利用者サービスの拡充

虐待防止

東三河GH連絡協議会で行われた虐待防止研修に参加したり、法人内研修で虐待防止について学んだり、GH世話人会議の中で利用者への対応や言葉遣いなどを話し合ったりしながら利用者支援の虐待防止について注意深く進めてきた。複数で見る機会が増えたことやラインを使ってすぐに対応など相談できる環境を整えたことで一人仕事のイメージを変えることが出来、職員も一人で悩むことが減り支え合いながら支援を進めることが出来た。

業務の標準化（各マニュアルの整備）

避難訓練マニュアルや心肺停止利用者発見時のマニュアルや業務チェックリストなどをGH世話人会議の中で必要と話し合われたものを整備してきた。今後は身体拘束マニュアルや感染症対策マニュアルなどを整備する必要がある。

意思決定支援

本人の意思を尊重する、本人の意思を確認するという方針をもとに利用者支援に当たってきた。

生活支援・自立支援・意思決定支援を統合した施設内仮想通貨構想だが、どのように進めるか GH 世話人会議で職員意見がまとまらなかったため、導入についてはもう少し時間がかかると思われる。

利用者の高齢化に伴う問題

ある利用者的高齢化に伴いどのように状態が変化し、どのような支援が必要とされるのかについて年間を通して様々な話し合いがもたれた。各事業所間で連携し、出来る限りの工夫し利用者に合った生活ペースなどを考え、実行してみるなどして、その様子を確認しフィードバックして再検討するなど行ってきた。

余暇支援

利用者がホームでの生活に変化を持たせることで楽しく過ごせたり、楽しみとなるような余暇支援の充実をいくつか計画し実施した。

日帰り旅行

GH カラオケ大会の開催

誕生日外出（外食）

温泉入浴外出支援

近隣への散歩

プール活動

室内運動

これは運動器具を用意し普段の運動不足解消を図ったが自主的に運動したいという希望者はなく、運動するとポイントをもらえ、たまるとコーヒーなどを提供するという実験を行ったが、運用に関して失敗に終わっている。もっと、工夫した設定が必要であったと考える。

このように様々な支援を行ってきた。しかし、今後もう少し丁寧に一人一人にあった余暇支援を行っていく必要があると考える。

（４）地域生活支援事業再編成に向けた事業体制づくり

「すたあと」と「ばあとなあ」との事業の在り方を検討し、協力もしくは統合できるか検討を重ねてきた。人の動きについては重なるところが多く、棲み分けは難しいと思われる。事業所の物理的距離もある程度の障壁となっている。しかし、同敷地内にあるなら事業再編成も可能であると考えられる。だが、すたあとはスプリンクラーの設置を行ったばかりで、事業所の移動はできずしばらくはハードではなくソフトの面で連携協力をしながら今後の再編成を視野に入れ進めていくことが求められる。

・自立支援の強化

世話人が身の回りのお世話をしすぎている感があり、利用者本人の力を伸ばす支援が不十分だったと考える。しかし、勤務時間内ですべての業務を終えなくてはならず利用者も自分のペースで進める方もおり時間との戦いの中支援に当たってもらっている。

自分の身の回りのことができるように支援していくためには利用者支援は支援、世話人業務は世話人と分けて行ってみるなどの方法もとってきた。それにより自分でできることは自分でしようとする積極性も一部芽生え始めている。(自分の衣類をたたむ、歯磨きをする、トイレの始末をする、自分の部屋をきれいにするなど)

人に教えることより世話人がやってしまった方が効率的であり時間短縮になるかもしれない。時間が余れば職員も余裕をもって支援に当たれるかもしれない。利用者自身も人にやってもらうことの方が楽であるしウィンウィンの関係だがよく考えると成長の機会を奪ってしまっている。時間がかかろうと手間がかかろうが出来そうなことを教えることはとても重要なことであると考え。

《まとめ》

だんだんと年を重ねる利用者の身体的精神的変化に対し、どう対処していくか、また、どこまでできるのかをもう一度検討し準備できるものは準備していかななくてはならない。

休みの日の通院介助、急な発病に対しての対応、緊急時の受け入れ、今まではご家族が健康で動けるので利用者に何かあった場合はご家族に対応をお願いしていたが今後難しくなるとそれぞれのご家族から面談の際相談があった。GH だけでは全面支援が難しい部分もあり、そこは日中の職員の協力も必要になってくるので事業所間で協力できるところは協力し利用者またご家族が安心していただけるように進めていく。

今年度で退所された利用者に対しては病状や体力低下が思いのほか進んでおりホームの夜間支援体制では、安全にまた安心して生活することの担保が得られなかったため退所という形となった。今後は夜間支援体制がある介護保険の施設での生活となる予定である。新しい場所が見つかるまではお手伝いという形で関わらせてもらいご家族が納得し安心するまで付き添っていくこととする。

今後起こりうるこのような状況に対し、ある程度の線引きをするとともに不備の面を整え利用者及びご家族が安心してホームでの生活を過ごしていただくための準備をする必要が迫られている。ホームが利用者にとって安住の地であるために職員が一致協力して知恵を出し合い、さらに良い支援を行えるホームとして成長していくために。

《職員研修》

4 月	「日本 GH 学会全国大会 IN あいち」	参加職員：森主任、大河主任
6 月	「介護技術基礎研修」	参加職員：大河主任、杉浦支援員
7 月	「日本 GH 学会全国大会 IN あいち」	参加職員：森主任、大河主任、杉浦支援員
	「世話人研修会」	参加職員：森主任、大河主任、杉浦支援員、大江支援員
9 月	「東三河 GH 連絡協議会合同研修 虐待防止研修」	参加職員：管理者梶尾、杉浦支援員
8～10 月	「権利擁護セミナー」	参加職員：伊藤支援員、管理者梶尾
10～11 月	「サービス管理責任者研修」	参加職員：伊藤支援員
1 月	「地域防災（災害弱者の防災対策）」	参加職員：伊藤支援員、管理者梶尾
共同生活支援ぱあとなあ 利用者利用日数		平成 31 年 3 月 31 日

障害支援区分別人数							
性別	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	
男性	0	0	0	3	1	1	5
女性	0	0	0	2	5	2	9
							14
年齢別人数							
性別	20歳未満	20－25歳	26－30歳	31－39歳	40－49歳	50－59歳	
男性	0	0	0	1	4	0	5
女性	0	0	0	7	1	1	9
							14
性別	平均年齢		最低年齢		最高年齢		
男性	41		31		48		
女性	37.8		35		50		

障害区分別月利用日数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
区分4	110	106	120	113	113	106	126	118	109	105	115	128	1369
区分5	134	131	148	135	139	135	157	152	132	131	126	146	1666
区分6	69	64	76	70	73	65	72	67	69	63	71	56	815
													3850
男女別月利用日数													
性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
男性	105	99	110	108	109	95	113	108	104	99	102	118	1270
女性	418	400	454	426	434	401	468	445	414	398	414	448	8970